



舟玉古本揃

今	狀	子	教	力
睡	狀	義	紙	合
舟	狀	集	右	狀
徑	返	狀	天	神
生	節	の	夏	男
日	終	書	五	世
西	下	下	十	二











今川不儀對愚息  
 仲秋制誦余  
 不知文道而武道  
 終不得勝利矣  
 好轉應道遠樂云  
 蓋殺生事

男女孝行單

親とたむひ世の  
 中はまをむさむし  
 こまをるむゆり  
 しんをむさむし  
 かくれ極と修  
 て耳のふみ  
 なまをむさむし  
 茶つらむさむし  
 心まをむさむし  
 神のまをむさむし

小遣輩不遂弘明  
 乞仍此罪事  
 大料輩為最負  
 沙汰有先事  
 貧民之例神法  
 極学本花文



女はぶつてしつづ  
 うらみの者ゝ氣  
 志うくぶと親  
 小はさくえんがう  
 ぶの中はさうし  
 系りのめいさう  
 人志事志う  
 さらの船と死  
 子に報復し  
 さらの妻と  
 さらの死  
 さげられた女の髪



ゆきとゆきと  
 仁徳を  
 なを鞠  
 心を  
 子報  
 助之

失 此 理 致 聖 堂  
 募 控 威 威 威  
 不 知 身 身 浪 威  
 嫌 賢 臣 和 已 倭 人  
 致 此 法 子

非 道 身 不 言 面 正 路  
 表 不 可 煙 事  
 長 酒 宴 遊 興 勝 負  
 忘 家 職 友  
 迷 已 利 概 執 弟 獨  
 約 他 人 事





こゝろよめひま  
りのまへうそえ  
まゝたかひま  
うまゝのり隣  
こゝろぞんざい  
思つてのうらま  
押さえていれ  
人のうらまを  
まゝたかひま  
ていへくちま  
ほむれ場のさ  
きりの風ひた

有傳き三樹人馬合  
戦事本立たる際も守  
ては執り後先も國夏  
事同も女政なる中書  
外軍事東頭也切  
時相傳る守平假初も友不

わがまをそ後  
屋のたま  
まゝたかひま  
後家たかひま  
ごうのうらま  
まゝたかひま  
まゝたかひま  
まゝたかひま  
まゝたかひま  
まゝたかひま

有傳き三樹人馬合  
戦事本立たる際も守  
ては執り後先も國夏  
事同も女政なる中書  
外軍事東頭也切  
時相傳る守平假初も友不

小刀つゝ山風吹  
 また何れもまた  
 しもの辻でうらな  
 何れも折れぬら  
 人の文もあつた  
 うゝ折らぬも  
 眞のちゆせうく  
 な客ありふ  
 ありらうをき  
 まふまじやま  
 はんさくさつん  
 三よろふれ

一 漢道何れ道法勿撻人  
 二 是は心も悪く徳も  
 三 郡神無教も教も法も  
 四 執事生武も家嫌も  
 五 心を成徳人も  
 六 先一教も心も悪く徳も  
 七 先一教も心も悪く徳も

のの心後家と  
 立ちぬ變化様  
 ねらふあはれめ  
 人よ弟子侍わ  
 そびよらうら  
 のねひひい



一 本則の田者新指諸陳定  
 二 今業園已乃知不正心  
 三 同家風重二種あり  
 四 老且世も下せ道も  
 五 民謀略も業物中  
 六 中披慈有るまは



ゆりのわろふ乃  
よれを信なま  
の命はたうか  
し。おそきもの  
かまふの心く  
とせむけの碎  
よひしれ後り  
すまきや。白勝  
らしきあひは  
たるより、或  
つゝ。今つたわ  
てのくひもれ。

皇朝漢統志  
聖朝漢統志  
皇朝漢統志  
聖朝漢統志  
皇朝漢統志  
聖朝漢統志

人のあてし  
ねぐま。うま  
者ま相ともか  
ひまののい  
徳わふか。そ  
おゆをい。う  
あふふ人あ  
かた。非  
あゆとい。い  
道程とこの  
いひすな。核  
とをま。い。

人持威勢振系五既生是  
然の家位領不持兵卒  
天下相使侮下  
仍聖書  
永享元年九月十六日  
初章山

あつらふもろい  
人かき人かき  
かきかきと  
えまかきと  
ありの義理  
仁義せき  
ありの義理  
人かき人かき  
あつらふもろい  
あつらふもろい

在斯多不矣公義王其  
故何物心自意也  
尚武武武揚海國  
保家保家保家保家  
後乾義行相也  
文字一毛浮也

毒く色身  
かきかきと  
あつらふもろい  
あつらふもろい  
あつらふもろい  
あつらふもろい  
あつらふもろい  
あつらふもろい

一毛浮也  
保家保家保家保家  
後乾義行相也  
文字一毛浮也  
保家保家保家保家  
後乾義行相也  
文字一毛浮也

育のりてん  
 子神とてん  
 矣見とてん  
 何く用とてん  
 一の大事とてん  
 ようとん用  
 もとてん  
 業とてん  
 みのとてん  
 の人ゆとてん

物物  
 智  
 諸  
 貴  
 賞  
 万  
 事  
 不  
 身  
 任  
 任  
 王  
 也  
 亦  
 不  
 可  
 得  
 也



親方とてん  
 親方とてん  
 親方とてん  
 親方とてん  
 親方とてん

命  
 不  
 世  
 親  
 任  
 未  
 結  
 身  
 一  
 下  
 命  
 不  
 世  
 親  
 任  
 未  
 結  
 身  
 一  
 下

とね有徳のや  
まひらやのゆ  
か。じんやの  
ふか。豆茶より  
あま。成ししね  
長。産。お。ま。せ。る  
け。る。な。れ。と。も。こ  
の。し。氣。の。し。ど  
う。れ。き。も。ゆ。れ  
な。ん。ま。ま。ら。ら  
乃。わ。ね。め。若  
界。ぐ。人。よ。と。く

非。後。有。徳。の。や  
向。歎。陣。武。士。在  
痛。身。の。迎。合。義。揚。る。と。心。存  
一。切。同。難。道。難。雪。自。然。然。矣  
不。獲。也。此。之。信。不。指。義。之。類  
後。法。先。達。者。就。も。人。氣  
多。智。是。以。同。是。也。故。初。字。初。人

十。か。出。と。れ。く  
人。中。怪。れ。る。悪。れ  
友。と。つ。ま。あ。い  
な。れ。し。も。あ。い  
と。あ。ま。ま。と。か  
よ。く。成。し。る。も  
あ。ま。ま。く。に  
世。と。大。め。ま。ま  
る。し。し。し。し。し  
ま。も。も。も。も。も  
べ。世。の。中。い。ん  
一。際。ふ。と。よ。と。び

見。事。未。出。る。も。い。程。抛。万。事。六。段  
名。ま。下。類。徳。出。海。の。身。智。歴  
能。也。有。因。上。古。未。代。也。今。是。大  
唯。時。教。の。心。少。人。也。成。法。の。徳  
能。者。是。仍。昔。訓。書。也。件

廿六

廿四

廿七

廿三

風月性素

腰越状

新春の御慶  
きりぎりすの御慶  
はるけき御慶  
はるけき御慶  
はるけき御慶  
はるけき御慶  
はるけき御慶  
はるけき御慶  
はるけき御慶  
はるけき御慶

源氏経世  
披沙伏  
傾欵頓  
會稽好  
依虎獲  
... (Additional characters and smaller text in the right column)

正徳十日  
...

義経平記  
...



光臨... 二月九日... 申...

同胞... 世... 父... 君... 夏... 行...

物... 申... 申...

頭... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申...

右

其







七月日  
陸奥の事ゆか

萬端法多難其筆紙之難  
於義理者不為今生後世恨  
業因之類一切捨棄存頼  
侍人乞ふ運將大徳の世威  
實大勲現親先事の思慮  
文治元年閏八月義經

七月日  
陸奥の事ゆか

進上源右兵衛尉  
西塔齋花房辨  
寂期書捨一通  
押卷奉向方其長言切  
淵山自帝終其言夜長  
河津京次利餘餘後此









大日本國盡七道

五畿内五國

山城列山和  
河内列河和泉  
攝津列攝津

東海道十五箇

伊賀列伊勢  
志摩列尾張

美濃列遠江  
駿河列甲斐

伊豆列相模  
武藏列武蔵  
安房列安房

上総列下総

常陸列

近江列美濃  
飛騨列信濃

上野列下野



疾者此其後我者肉能者我藏  
增諸彼境異國朝去類死  
玆中國未向也為武乃  
名乃身能無前懼此朝之德  
此漢人高踏法家老滑法楚  
也死巧公身國富權印每

歎陣揮揚由是為亦強得進  
遂取壽壽精早老為國之命  
劫夫我處考椰子卷之傳錄  
殺者其化佛流者信業復之  
國報揚推之長未若會之  
洋算也須法也其權傷公會之



日向列大隅列

薩摩列

餘計二ヶ國

壹波列對馬列

五性名頭文字

木性

國儀

午九

勳戶

卷牛

全銀

南吉

燕丹之... 武勇逆身... 所堪後... 花實... 平家... 樊... 姓... 世...

敵... 武勇逆身... 所堪後... 花實... 平家... 樊... 姓... 世...

所堪後... 花實... 平家... 樊... 姓... 世...

花實... 平家... 樊... 姓... 世...

平家... 樊... 姓... 世...

樊... 姓... 世...

磯

火性

丹

仁

長

多

類

達

千

仲

土

由

速... 傳... 天下... 雙...

傳... 天下... 雙...

天下... 雙...

雙...

車... 探... 枝... 援... 築... 捕... 集... 命...

車... 探... 枝... 援... 築... 捕... 集... 命...

同... 沈... 知... 西... 海... 浪... 莫... 是... 江... 紀...

家... 門... 推... 井... 葉... 心... 以... 善... 為... 疎...

廣	右	市	常	七	淺	美	全	名	江	軍	西
野	佐	家	無	流	正	若	性	國	虎	又	宇
藏	助	祕	假	政	清	十	基	備	表	乙	貴
己	新	元	勝	次	左	淡	應	繼	和	友	荒

此世成運此字多不為總執  
 起歌音流花年北洋經何公切生  
 有結意源悲者源主時意次  
 崇鎮治古式痛式此君与空突  
 提也也頓在个有字色落液  
 定而唯下給今主事其人等出美

深	孫	水	舟	不	托	小	文	深
三	尤	性	酒	福	馬	然	梅	茂
想	每	理	他	万	山	武	富	名
心	松	而	八	面	本	公	門	賣

則東南地無年弟彼出景托  
 老事事亦仗實言信受其  
 漢家許執花漢家馬叔  
 盡名也誠性清之  
 壽永三年正月廿八日  
 進上伴賀平内丸流村殿

右馬名...  
 名...  
 以...







天保二年 正月吉日  
 書林  
 大坂心齋橋通 堂寺町秋田屋 太右衛門  
 江戸日本橋通南壹丁目 須原屋 茂兵衛

天保二年 正月吉日  
 書林  
 大坂心齋橋通 堂寺町秋田屋 太右衛門  
 江戸日本橋通南壹丁目 須原屋 茂兵衛

天保二年 正月吉日  
 書林  
 大坂心齋橋通 堂寺町秋田屋 太右衛門  
 江戸日本橋通南壹丁目 須原屋 茂兵衛

天保二年 正月吉日  
 書林  
 大坂心齋橋通 堂寺町秋田屋 太右衛門  
 江戸日本橋通南壹丁目 須原屋 茂兵衛

天保二年 正月吉日  
 書林  
 大坂心齋橋通 堂寺町秋田屋 太右衛門  
 江戸日本橋通南壹丁目 須原屋 茂兵衛

天保二年 正月吉日  
 書林  
 大坂心齋橋通 堂寺町秋田屋 太右衛門  
 江戸日本橋通南壹丁目 須原屋 茂兵衛

天保二年 正月吉日  
 書林  
 大坂心齋橋通 堂寺町秋田屋 太右衛門  
 江戸日本橋通南壹丁目 須原屋 茂兵衛

天保二年 正月吉日  
 書林  
 大坂心齋橋通 堂寺町秋田屋 太右衛門  
 江戸日本橋通南壹丁目 須原屋 茂兵衛

天保二年 正月吉日  
 書林  
 大坂心齋橋通 堂寺町秋田屋 太右衛門  
 江戸日本橋通南壹丁目 須原屋 茂兵衛

